



第百五十六號

(第十四卷)

昭和九年四月

編輯室より

日食観測隊が歸つて來た！ まつ黒な顔で！ 四五十日の勞苦は、立派な晴天に恵まれた大切な「2分時」によつて、充分に報ゐられたとは思ふが、しかし、日食観測の成果は、むしろ今後である。寫眞原板を現像して、そこに現はれた映像を、測微器下にかけて、そして、測つた結果によつて、本當の價值が定まるのであるから、吾人としては、尙ほ『これからシツカリ御やり下さい』と、祈らざるを得ない。——遠征旅行の日誌や記事は、號を追ふて益々讀者諸氏を喜ばせることと思ふ。

水野副會長の、いつも周到な新刊紹介は有難い。言ふまでもなく此の記事は、我が「天界」の創刊の頃に古川氏が始められた天文書一覽の後を追ひ、邦文天文書を漏れなく採録せられてゐるのであつて、天文文献の全部を通覽するに必要、且つ獨歩の文である。因みに、此の文の、今までの目次を下に掲げる。

古川龍城氏	邦文天文書一覽(1)	「天界」第1號第7頁	} 1920年迄の書
„	„ (2)	„ 第2號第26頁	
水野千里氏	最近五年間邦文天文書一覽(1)	„ 第57號第374頁	} 1920—1925年間の書
„	„ (2)	„ 第58號第428頁	
„	最近邦文天文書一覽	„ 第75號第264頁	} 1925—1927年間の書
„	昭和二三年邦文天文書一覽	„ 第100號第388頁	
„	昭和四五年邦文天文書一覽	„ 第131號第96頁	} 1929—1931年度の書
„	昭和七年中の邦文天文書一覽	„ 第145號第178頁	
			} 1932年度の書

毎々グチることではあるが、本誌の編輯室には各方面からの興味ある原稿が山積してゐる。之れが皆は載せられずに、時機を失したり、棄てられたりするのには、本誌のページ数が制限されてゐるためである。いろんな題目の下に「天文講座」の如きものや研究論文や、貴重な観測報告類、外國の天文雑誌に載せられてゐる諸大家の文や講演の譯文、天文古典の紹介、最近に發表せられる内外の論文要目等々、何れも天文愛好者を喜ばせるものであるが、此等を成るべく載せるがためには、本誌を少くとも毎號100頁ぐらゐの雑誌にしたい。之れには資金が欲しい。又、多數の新入會員の後援が得たい。會員が2000名になれば、ほゞ此等の要求を満たすことが出來ると思ふ。(η)